

つなぐ



諫早市立大草小学校  
特別支援教育  
コーディネーターだより  
H30.6.21 No.10  
文責 林田

## 😊 大切に手をかけて… 😊

教育週間も終盤に入りました。これまでにご来校いただいた皆様は、大草小学校の子どもの育ちをいかがご覧になったでしょうか。

右の写真の茄子は、2年生が生活科の学習で育てている野菜の収穫物の中の1つです。毎朝水やりや観察をして大切に育てています。



野菜と人との共通点は、どちらも「生きている」ということです。大切に育てると健やかに育ちます。また、茄子には茄子の、トマトにはトマトに合った育て方があるように、一人一人の子どもにも、その子に合った支援・言葉かけ（育て方）があることは言うまでもありませんね。

話は変わりますが、19日に行われたサッカーワールドカップの試合を観戦された方も多いこととでしょう。見事に勝利を手にした日本のチームは、監督の指導や采配と選手の個性(能力)がうまくかみ合ったからこそ貴重な一勝を挙げることができたのではないかと思います。



私たちが、「どのような手立てを講じれば、この子のもつ能力を引き出し、自信をもって生活していくことができるようになるだろうか?」と考える育てていくことは、少し大げさかもしれませんが、サッカーの試合における監督の役割と似ているかもしれません。

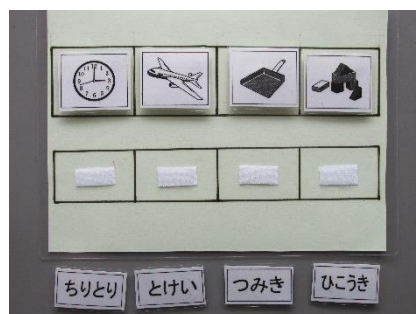
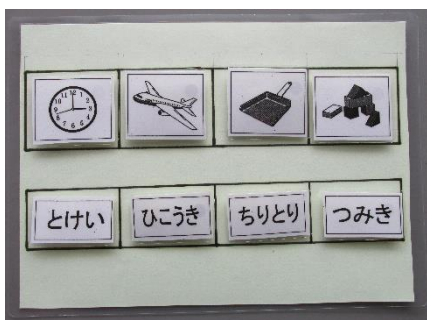
つまり、一人一人の個性を理解し、その子の良さを伸ばしながら（指導する）、苦手なことに対処する方法を身に付けさせ（改善する・作戦を立てる）、社会の中で生活していくことができるようにする（試合に勝つ）ということなのではないかと思います。

さて今回は、個性の一つであるLD(学習障害)のある子どもに対する支援の方法についてご紹介します。「学習障害」とは、簡単に言うと特定の学習内容に困難さを感じる状態のことです。例えば、「ひらがなが漢字の練習を頑張っているのに、なかなか覚えることができない」「音読が上手にできない」「算数科の図形の問題が極端に苦手」などがあげられます。それぞれの困難さにはどのように対応してあげればいいか、いくつか具体例をご紹介します。

### ◀ その1 ひらがなが読めない子への支援の工夫① ▶

1年生で一通りひらがなの学習を終えた後、物の名前とひらがなが一致しない子がいた場合、どのように指導したらいいかと考えて作成したのが下のような教具です。

A4サイズの用紙に8個の枠を書き、ラミネートフィルムでコーティングする。それぞれの枠の中に、マジックテープを張る(台紙)。イラストとそのイラストの名前のカードを作り(ラミネートする)、それぞれのカードの裏にマジックテープを付け、台紙に張り付けられるようにする。



① 絵カードとひらがなをマッチングし、一緒に読みながら覚える。

② 文字のカードを外してばらばらに置き、絵に合うカードを貼らせる。

③ 慣れてきたら、絵カードを並べ替え、絵に合うカードを貼らせる。

何通りかの絵カードと文字の組み合わせのパターンを作っておき、一つクリアしたら、次の課題に進んでいくことができます。カードは間違えた場合でも簡単に取り外せて修正できるので取り組みやすいです。